

平成30年度第2回四国中央市男女共同参画審議会会議録

1. 開催日時 平成31年2月13日（水） 19時00分から20時30分
2. 場 所 四国中央市市民交流棟 2階 会議室2
3. 出席者 (委員長) 亀岡マリ子 (副委員長) 窪田幸子
(委 員) 宮崎恵、伊藤智子、由良芳雄、菊池恵子、鈴木秀明
(敬称略)
(事務局) 政策部長 金崎佐和子、 地域振興課長 脇総二
地域振興課女性政策係 上田智安希、水本依里
(安全・危機管理課) 上野敦、高橋洋平
(服部製紙株式会社) 服部美奈子、平塚美生
4. 傍聴者 なし
5. 会議内容
 1. 開会
委員長あいさつ
 2. 議事
 - (1) 【関連施策ヒアリング】
 - ・消防団員や防災士などの防災人材への参画促進・育成について
 - ・女性管理職の現状について
 - (2) その他
 3. 閉会
6. 会議録 次頁のとおり

	<p>委員長あいさつ</p> <p>●議事(1) 消防団員や防災士などの防災人材への参画促進・育成について消防本部安全・危機管理課職員より説明</p> <p>●女性管理職の現状について、服部製紙株式会社設計開発部設計課長、品質管理部品質管理課長より説明</p> <p>説明後、質問を受け付ける。</p> <p>(安全・危機管理課への質問事項等)</p>
委員	<p>防災士の資格取得者が、出前講座で講師として参加した実績はあるか。</p>
担当職員	<p>実績はない。今後そのようになるのが理想的である。</p>
委員	<p>女性消防団員の活動として、啓発活動とあるが具体的にどのようなことをしているのか。</p>
担当職員	<p>県の消防協会と連携し、高校生を対象に講習会を開き、消防団の紹介や、これまでの体験談、消防団に入ってよかったことなど、高校生に生の声を届け、未来の消防団員になってもらえるような呼びかけをしている。その他にはティッシュ配りなどを行っている。</p>
委員	<p>応急手当指導員とは、どのようなことをするのか。</p>
担当職員	<p>団本部女性部は全員、全3日間の応急手当普及員講習を受講し、応急手当指導員の資格を取得しており、各事業所が応急手当普及講習を受講する際には、団本部女性部も同席し、指導の補助などを行っている。</p>
委員	<p>女性消防団は現在16名で、設立してまだ4年程度である。組織として何かするというよりは、みんなで勉強して、これからすべきこと等を探しているというような状況である。消防団活動において、興味・関心のあることは、要望し体験させてもらっている。例えば、はしご車に乗ってみたい、実際に放水してみたい、自分の住んでいる地域の消火栓を確認したい、実際に火災が起こったとき、どのように消火栓を開けるのか知りたい、消防車が来るまでに、どんな準備をしておいたらいいのかなど、実際に教えてもらい知識を深めている。女性消防団員も増加傾向にあるので、女性消防団員としての活動も増やしていきたい。</p> <p>四国中央市はこれまで、幸いにも大きな災害がないので、全国の女性大会に毎年参加し、色々な防災活動について勉強している。「ハグゲーム」という災害時の避難所を想定した仮想ゲームがあり、体験してみると大変難しく、実際に災害が起こったときに、自分に何ができるのか、考えるきっかけになった。</p>
委員	<p>「ハグゲーム」など実際に体験してみたいが、女性消防団の方に依頼できるのか。</p>
担当職員	<p>出前講座で「ハグゲーム」を体験してもらうことは可能だが、現時点では消防団や女性消防団員ではなく、職員が対応している状況である。今後、女性消防団員にも対応してもらえるようになるのが理想的である。</p>
委員長	<p>実際の避難所の設営や運営について、女性目線ではなく男性目線で行われることが多いため、女性にとっては過ぎしにくく、問題になったことがあった。このような時にも女性消防団が関わっていくことは非常に重要であると考え。地域で防災についての勉強会</p>

	<p>など行うときには、ぜひ女性消防団員の方にご協力いただきたい。</p>
委員	<p>自分の地域でも防災についての勉強会などが行われているが、あまり積極的に参加できていない。女性が積極的に参加していくことで、違った視点で考えられるのではないかと思う。</p> <p>女性消防団員はどのような人が入団しているのか。</p>
委員	<p>看護師など、様々な仕事をしている人が多い。避難所が開設した時に、出動する場合もあるので、子育てが落ち着いた世代の人が中心となっている。幸いなことに、実際に出動要請はかかったことはないが、そのような場合には女性としてできることをしたいと思っている。例えば生理用品や子どものおむつなど、女性に関わる部分について、何が一番必要とされているかを把握し、どのように情報を共有していくかが重要になってくる。全国の女性大会に参加しネットワークを広げながら勉強している。</p>
委員	<p>自分は消防団に入っているが、まだまだ女性消防団員が少ないのが現状である。火災による出動はほとんどないが、台風による豪雨の時などは、毎回見回りなどを行ってきた。そのような時には家に残された自分の家族のことが気になり、普段の備えが重要であるということに改めて気づかされる。家族で身を守る時に男女の視点を取り入れ、普段からできることを備えたい。</p>
委員	<p>防災士と消防団の違いは何か。講座を受講すると、資格は取得できるのか。</p>
担当職員	<p>防災士は防災に対する十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人である。地元の自治体単位で推薦者を出し、試験に合格すると防災士の資格を取得できる。資格取得後は防災士として地域に戻り、組織のリーダー的な立場になり、防災活動に取り組んでいく。</p> <p>消防団は、地域における消防防災のリーダーとして、地域に密着し、住民の安心と安全を守る重要な役割を担っている。団ごとに面接があり、実際に消防団としての活動が可能か確認し、団員になることができる。女性消防団員数の目標数値は10名としていたが、現在は16名の団員がおり、目標数値を達成している。女性消防団は年々増加している。</p>
委員	<p>(服部製紙株式会社への質問事項等)</p> <p>この10年間で結婚や出産が退職のきっかけにならなくなったとお聞きしたが、具体的な事例等があればお聞きしたい。仕事をしやすいと感じるのはどのような点か。</p>
服部製紙	<p>当社ではウェットティッシュや化粧品など、女性が使うものが多いので、女性の意見を聞いて、取り入れてくれることが多い。早い時期から産休制度を取り入れたことで、出産後に職場復帰する女性社員が増加した。以前はオペレーターは男性が多かったが、女性のきめ細やかな対応が向いており、最近では女性の採用が増加している。</p>
委員長	<p>会社全体で課長が11名のうち、女性課長が6名と女性の割合が高く、都会ではあるかもしれないがこの地域では珍しいと感じた。会社全体では男女比はどれぐらいか。</p>
服部製紙	<p>男性社員の割合が少し多いと思われる。当社は新しいものをどんどん取り入れるという社風があり、男女ともに意見を出し、新しいことを取り入れているので、そのような点が男女ともに働きやすく感じているのではないか。女性課長が増えているが、すべて事務職で製造現場にはまだいないので、今後の目標である。</p>
委員	<p>女性が活躍できる環境になってきたが、女性の意識が追いついていないのではと感じる。昇格などの機会があっても、それを嫌がり受け入れないというのはまだまだ世の中にはありがちだと思う。</p>

委員	<p>自分の会社では女性活躍の点については、あまりできてないように感じる。仕事柄、製造現場、事務職に女性が少なく、会社として見習うべきだと思うが、実際は難しいのが現状である。</p>
委員	<p>以前、服部製紙を訪問した際に若い女性社員が多いという印象を受けた。求人情報掲載時の聞き取りで、小さな子どもがいるとどうしても急に休みを取ることがあり、迷惑をかけるのではないかと、嫌な顔をされるのではないかと心配になるが、理解のある職場で働きやすいと聞いたことがある。</p>
委員	<p>人事評価基準を設定しているが、男女で何か違いなどはあるか。</p>
服部製紙	<p>コンピテンシーを人事評価制度に導入してるが、男女で異なることはない。</p>
委員長	<p>現在四国中央市では男女共同参画社会づくりの推進に賛同していただける企業を募集しているので、服部製紙にもぜひ賛同していただくよう依頼したい。</p> <p>愛媛県では自分たちの組織のボスやリーダーを部下などの応援団が紹介する、ひめボスグランプリがある。審査会に参加したことがあるが、四国中央市からの参加はまだない。ぜひそういった場面へも積極的に参加し、会社のPRを行っていただきたい。</p> <p>●議事(2)男女共同参画関連施策の状況について、事務局より説明</p>
委員長	<p>以上で、平成30年度第2回四国中央市男女共同参画審議会を閉会する。</p>